



泊如集注解

禮

此年

核了

9



白雲無礙舞

泊舟集

芭蕉菴拾遺稿

洛陽 風岡權次

濃大垣 輕花 註解

夏の歌

山崎宗鑑の四歌

カケリノ死すこゝなまん杜ソの

山崎宗鑑の四歌
カケリノ死すこゝなまん杜ソの
カケリノ死すこゝなまん杜ソの
カケリノ死すこゝなまん杜ソの



卯の花

卯の花やくらげ抄のあひに

あまのふくねうたの抄にさうさうさうさう
をたれたあひにさうさうさうさう

さ

竹のさうさうさうさうさうさうさう

あまのふくねうたの抄にさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

あまのふくねうたの抄にさうさうさうさう

あまのふくねうたの抄にさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

あまのふくねうたの抄にさうさうさうさう

凡葉

大山の傍

凡のほねを裁きけりけりけりけり

大山居せしうたの傍にさうさうさうさう

あまのふくねうたの抄にさうさうさうさう

大山一修村の傍にさうさうさうさう

詩仙堂

生涯の流しをよめるいふはるし今もそを
あきらむるまの業をよめるいふはるし
えくぬ織の流しをよめるいふはるし
ていかしむる利をよめるいふはるし
ちしん

ははるしのいふのおかし

ははるしはるしはるしはるしはるし
ちしんはるしはるしはるしはるし
はるしはるしはるしはるしはるし

おかし

おかしをよめるいふはるし
おかしをよめるいふはるし
おかしをよめるいふはるし
おかしをよめるいふはるし
おかしをよめるいふはるし
おかしをよめるいふはるし
おかしをよめるいふはるし
おかしをよめるいふはるし

おかし

おかしをよめるいふはるし

ナトニテ取
扱ヒツラシト

おかしをよめるいふはるし

よむの...
らん

クマもど...
はのむ

折ら...
花を...

き...

仙のばむ...
連...

仙...
は...

抑...
仲...

世...
人の...

天...

山...

仙...
...

仙...
...

神...

安徳守 ほうろ

ふりる此ゆるを紙しやちきき

他のきき増いあるかかきかきかきかき
きかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき

ふりるゆるを紙しやちきき

かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき

かきかきかきかきかきかきかきかき

ゆつふつふつふつふつふつふつふつ
かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき

ふりるゆるを紙しやちきき

かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき

かきかきかきかきかきかきかきかき

ふりるゆるを紙しやちきき

此の如くは、
ありては、

三三三

三三三
三三三
三三三

三三三
三三三
三三三

三三三
三三三
三三三

三三三
三三三
三三三

三多摩川にありては、くさくさたるに、
向ふは、あまのこゝろに、
しづかに、
しづかに、

吾の別れをいふ

定形、吾の別れの事、
世説に陶徴士嘗言五六月北窓下臥遇
涼風書至自謂羲皇上人、
別れ、あまのこゝろに、
月山

世説に陶徴士嘗言五六月北窓下臥遇
涼風書至自謂羲皇上人、
別れ、あまのこゝろに、
月山

月山

吾の別れをいふ、
見

あまのこゝろに、
あまのこゝろに、
あまのこゝろに、
あまのこゝろに、

大津丹野

あまのこゝろに、
あまのこゝろに、
あまのこゝろに、
あまのこゝろに、

丹野の別れをいふ、
カラ

丹野の別れをいふ、
カラ

Wiederholungsübungen
für die deutsche Sprache

湖のほとりには
美しい花が咲き
春の訪れを告げる
季節の移り変わりを
感じさせる

大津湖のほとり

水鏡

水鏡に映る花の姿は
静かなる美しさ

湖のほとりには
美しい花が咲き
春の訪れを告げる
季節の移り変わりを
感じさせる

大津湖のほとり

水鏡

水鏡に映る花の姿は
静かなる美しさ
湖のほとりには
美しい花が咲き
春の訪れを告げる
季節の移り変わりを
感じさせる

水鏡

湖のほとりには
美しい花が咲き
春の訪れを告げる
季節の移り変わりを
感じさせる

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or notes.

Handwritten text in cursive script, possibly a title or section header.

夕歌

Handwritten text in cursive script, including the characters '夕歌' and '夕歌の白く'.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or date.

常規

上ハマリノカク
見ツケタリ

ワシハミハノ政の自こ

世新ヨ書ある正風を悟る也ハミハノ
吹ク古今旋頸歎ニラリミハミハノ
コノハミハノミハノミハノミハノ
何のミハノミハノミハノミハノ
常規ニミハノミハノミハノ

涼

川中のお母さん

根木ハミハノミハノミハノミハノ
何のミハノミハノミハノミハノ

上ハミハノミハノミハノミハノ
のミハノミハノミハノミハノ

阪あはくゆき

上ハミハノミハノミハノミハノ

あはくゆき

上ハミハノミハノミハノミハノ

いなかの川

月夜の川

川中のお母さん

ほのぼののくひはくはあきまの
むらさきあざむきくはくはあきまの
あきまのくはくはあきまの
あきまのくはくはあきまの
あきまのくはくはあきまの
あきまのくはくはあきまの

川風やうきうきうきうきうきうき

細くうきうきうきうきうきうき
あきまのくはくはあきまの

あきまの

あきまのくはくはあきまの
あきまのくはくはあきまの

あきまのくはくはあきまの

あきまのくはくはあきまの
あきまのくはくはあきまの
あきまのくはくはあきまの

あきまのくはくはあきまの

あきまのくはくはあきまの

おまゝの心・まゝの心・まゝの心
おまゝの心・まゝの心・まゝの心

腰長

腰長や膝腔のまゝの心

まゝの心・まゝの心・まゝの心
まゝの心・まゝの心・まゝの心

ふあ湯

ふあ湯のまゝの心や西施のまゝの心

西施のまゝの心・まゝの心・まゝの心
まゝの心・まゝの心・まゝの心

うまゝの心・まゝの心・まゝの心

西行橋

西行橋

まゝの心・まゝの心・まゝの心

まゝの心・まゝの心・まゝの心

まゝの心・まゝの心・まゝの心

まゝの心・まゝの心・まゝの心

まゝの心・まゝの心・まゝの心

まゝの心・まゝの心・まゝの心

夕時や橋のまゝの心

橋のまゝの心・まゝの心・まゝの心

しんえんくわんしんりくしんりくしんりく

十八樓の祀 芳名記

世に... 目... 入... 記... の... 記...

世に... 記... の... 記... の... 記...

野

すし... 記... の... 記...

白...

記... の... 記...

風流を...

あま... 記... の... 記...

あま... 記... の... 記... の... 記...

す

清... 記... の... 記...

あま... 記... の... 記... の... 記...

中より一ふり今集めたる
ら一わらう

石成の條

鉄肝石をけ人の性

たそしこころは清や楠のるめやう
梓子のあまのこは一穀の心をあは
せしんころしん楠まこころは鉄肝
石心をあまのこころは

牛一碑日

ゆすすし牛一碑日

俗説に五日十とを牛一碑日といぬ
るるるるの俗説を捨てるるるる
て
牛一碑日といぬ
捨てるるるるるの俗
説を捨てるるるるる
るるるるるるるるるる

牛一碑日

あ
毎
牛一碑日といぬ
るるるるるるるるるる

のねらふ節と吐せらるるをうたへにらまは
しむむのけしき

ふらふらあつた物候のあつた
けしきをいふにききしき
けしきをいふにききしき

まことたふひの長谷川ハヤシの節
けしきをいふにききしき

けしきをいふにききしき

母費ハハのけしきをいふにききしき

けしきをいふにききしき
けしきをいふにききしき

すくすく

後ノチに跡アトやまの跡アトもさすのけしき

けしきをいふにききしき
けしきをいふにききしき
けしきをいふにききしき

月ツキのけしきや跡アトもさすのけしき

り又我もははきりしる

那須の海

海をむきふちうひもあはははる

うまひりてん

ちわの國はあははるははるあははる
あははるあははるあははるあははる
海をむきふちうひもあははる
海をむきふちうひもあははる
海をむきふちうひもあははる
海をむきふちうひもあははる

純なる海

おのちをせんよと秋のつらき

純なる海とわいひつる人
おのちをせんよと秋のつらき
おのちをせんよと秋のつらき
おのちをせんよと秋のつらき
おのちをせんよと秋のつらき
おのちをせんよと秋のつらき
おのちをせんよと秋のつらき
おのちをせんよと秋のつらき
おのちをせんよと秋のつらき
おのちをせんよと秋のつらき

海をむきふちうひもあははる

海をむきふちうひもあははる

海をむきふちうひもあははる

とくさるるのくさるるにふかきあはれしりま
しりまのくさるるにふかきあはれしりま

のまはれしりまのくさるるにふかきあはれしりま

細きくさるるにふかきあはれしりま

まはれしりまのくさるるにふかきあはれしりま

しりまのくさるるにふかきあはれしりま

りまのくさるるにふかきあはれしりま

る

七ねららるる

肩押したるるにふかきあはれしりま

肩押したるるにふかきあはれしりま

まはれしりまのくさるるにふかきあはれしりま

千子ららるる

みの國ららるる

りまのくさるるにふかきあはれしりま

おのれ人のくさるるにふかきあはれしりま

くさるるにふかきあはれしりま

まはれしりまのくさるるにふかきあはれしりま

ほのくさるるにふかきあはれしりま

幻住菴 記 揚 菴 三 二 一

せんちのむじ権のゆいけいなるゆきよしせりしとん

ほむおぼはるる人路のきめこ

柑のむむふしこころありなるれ

しりしせきをたぬくく香のたけ

のうまもいもあまいなるものたけ

からほしひのCatanen

佛頂経所の巻をててく

本はくふしう香をたゆしひるゆき

後店の茶寂おの月ううはあり

は

あ別

くくに食のまててく能おの

るさいぬ其う

まゐのゆきをくくははひのい

たてはるるたのううふつひ

うたあなひりしせよんは

せよのなよふていん

茶寂おのけいりて

河のたより

せのくのみせなるちや水の雲

しを信じてくしりきたのたのま妙く
うらむるは細なるあり

うらむる川

あはふ日経流し入るうらむる川
ゆるゆる日の入まれば細流ゆるゆる
せきせきうらむる川のゆるゆるあり
まじりゆるゆるあり

あちさい

あちさいわの敷とわ庭の^{ニヤウ}川を
せむる敷の中へ^{ニ見}ゆるゆるわ庭をんいふ

庭浦のあち敷をゆるゆるあり

二二の軒

二二の軒のあち敷のゆるゆるあり
ゆるゆるのあち敷のゆるゆるあり
ゆるゆるのあち敷のゆるゆるあり
ゆるゆるのあち敷のゆるゆるあり
ゆるゆるのあち敷のゆるゆるあり
ゆるゆるのあち敷のゆるゆるあり
ゆるゆるのあち敷のゆるゆるあり
ゆるゆるのあち敷のゆるゆるあり

まじりゆるゆるのあち敷のゆるゆるあり

ゆるゆるのあち敷のゆるゆるあり

解を考へんはつるる人 破破をこしん
たつたあつてつるるは紙のつるるあつたあつた
まはつるる人つるる解つるる金つるる
破つるるあつたあつた

芝居合の画解つるる

洋子人若菜屋つるるや破つるる

つるるつるるつるるつるるつるるつるる
つるるつるるつるるつるるつるるつるる

芝居合

楊のつるるや花を死にたつたのつるるつるる
つるるつるるつるるつるるつるるつるる
つるるつるるつるるつるるつるるつるる
つるるつるるつるるつるるつるるつるる
つるるつるるつるるつるるつるるつるる

はつたつるるつるるつるるつるる

つるるつるるつるるつるるつるるつるる
つるるつるるつるるつるるつるるつるる
つるるつるるつるるつるるつるるつるる
つるるつるるつるるつるるつるるつるる
つるるつるるつるるつるるつるるつるる

尾のしるし書記の列あり

條のあり終りよかきし一葉のつふ

廿九のけし一書後の終りあり

今一のしるし

終りしるし終りありけし終りあり

我るも改のちいし終りと終り

後しるし終りの終りしるし終りあり

とんしるし終りありのトキモ

今一のしるし

たまりし終りあり終りしるしの終り

大垣の城を
目えし代ま
しるし終り
しるし終り
しるし終り

あるしるし終りしるしの終りあり
しるし終りしるしの終りあり
しるし終りしるしの終りあり
しるし終りしるしの終りあり

るるのしるし終りしるしの終りあり

しるし終りしるしの終りあり

しるし終りしるしの終りあり

しるし終りしるしの終りあり

しるし終りしるしの終りあり

しるし終りしるしの終りあり

いとあはれぬ

あはれりし細きあはれ

用は

あはれぬのほろひあはれ

~~~~~

まはしやる解のほろひ

其ヤ

の解はあはれぬ

あはれぬのほろひ

あはれぬのほろひ

あはれぬのほろひ

あはれぬ  
あはれぬ  
あはれぬ

あはれぬのほろひ

あはれぬのほろひ

あはれぬのほろひ

あはれぬのほろひ

あはれぬのほろひ

~~~~~



